



ファームウェアバージョン:	R2.60.B009	
ハードウェアバージョン:	DXS-3600-16S DXS-3600-32S	B1、B2
発行日:	2021/1/5	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“コマンドラインインタフェース(CLI)マニュアル”を参照してください。

目次：

変更履歴とシステム要件：	2
サポートするモジュール：	2
アップグレード時の注意事項：	2
ファームウェアアップグレード手順：	3
CLI を使用したアップグレード手順：	3
追加機能：	6
MIB 及び D-View Module の変更点：	6
CLI の変更点：	6
修正した問題点：	6
既知の問題：	7

変更履歴とシステム要件：

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
R2.60.B009	2021/1/5	DXS-3600-16S DXS-3600-32S	B1、B2

サポートするモジュール：

ファームウェアバージョン	モジュール
R2.60.B009	<ul style="list-style-type: none"> ● DXS-3600-EM-4XT：10G BASE-T × 4 ポートモジュール ● DXS-3600-EM-8T：10/100/1000MBase-T × 8 ポートモジュール ● DXS-3600-EM-4QXS：40Gbps QSFP+ × 4 スロットモジュール ● DXS-3600-EM-8XS：10G SFP+ × 8 スロットモジュール ● DXS-3600-EM-Stack：120G CXP × 2 物理スタックモジュール ● DXS-3600-PWR-FB：300W AC パワーサブライトレイ（前面から背面へのエアフロー） ● DXS-3600-FAN-FB：ファントレイ（前面から背面へのエアフロー） ● DXS-3600-PWR-BF：300W AC パワーサブライトレイ（背面から前面へのエアフロー） ● DXS-3600-FAN-BF：ファントレイ（背面から前面へのエアフロー） ● DXS-3600-PWRDC-FB：300W DC パワーサブライトレイ（前面から背面へのエアフロー） ● DXS-PWR300AC：300W AC パワーサブライトレイ（前面から背面へのエアフロー） ● DXS-PWR300DC：300W DC パワーサブライトレイ（前面から背面へのエアフロー）

アップグレード時の注意事項：

- R2.40.46 より古いバージョンをご利用の場合は、本ファームウェアを適用する前に、同梱の R2.00.B042 及び（または）R2.31.B059 を適用する必要があります。

以下の表を参照し、アップグレードを実施してください。

ご利用のファームウェアバージョン	ファームウェア適用順序
R1.10.B023 またはこれより古いバージョン	① R2.00.B042 ② R2.31.B059 ③ R2.60.B009
R2.00.B042	① R2.31.B059 ② R2.60.B009
R2.40.B046 以降のバージョン	① R2.60.B009 ※直接アップグレードいただけます。

※ファームウェアを R1.10 から R2.00 にアップグレードする際に、コンフィグレーションファイルがフラッシュに保存されている場合、スイッチは自動的に CLI コマンドを新しいフォーマットに変換します。

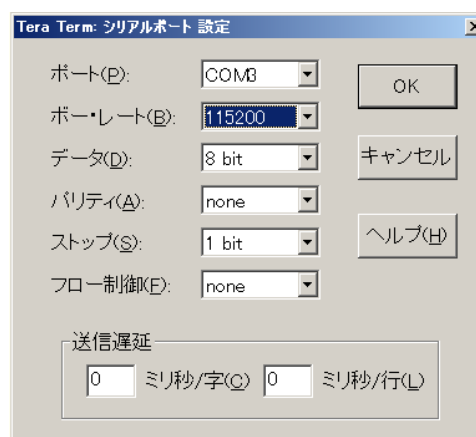
- R2.40.B046 より古いファームウェアをご利用の場合、WebGUI では、ダウンロードしたファイルをブートアップに指定することができないため、CLI でのアップグレードを推奨します。
- 本ファームウェアには EI および SI の機能が含まれています。アップグレードを行うと、システムが自動的に判別を行い、関連する機能のみを有効にします。
- ハードウェアバージョン:B2 は R2.60.B009 より古いバージョンにはダウングレードできません。

アップグレード手順：

CLI を使用したアップグレード手順：

1. スイッチの RS-232 シリアルポート（コンソールポート）と PC を接続し、ターミナルソフトウェアを起動します。ターミナルソフトウェアの設定は下記の通りです。（本手順書ではターミナルソフトウェアは Tera Term を使用しています。）

- ボーレート：**115200**
- データビット：**8**
- パリティ：**none**
- ストップビット：**1**
- フロー制御：**none**



2. 接続が正常に行われると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。管理者のユーザ名及びパスワードは、初期状態では登録されていないので「enter」キーを 1 回押し、ログインします。
3. ログイン後は下記のコマンドを使用し、ファームウェアのアップデートを行います。

コマンド	説明
enable	特権レベルに移行します。
copy tftp: //LOCATION/SOURCE SOURCE-URL flash: PATHPATH-FILEFILE-NAME	スイッチにファームウェアをダウンロードします。
configure terminal	グローバルコンフィグモードに入ります。
boot image	次回の起動時にイメージファイルとして使用されるファイルを指定します。
show boot	現在のブートイメージと設定ファイル名を表示します。
exit	現在のコンフィグモードを終了し、最後に使用したモードに戻ります。
reboot	スイッチをリブートします。
show version	スイッチのバージョンを表示します。

次ページの例を参考にファームウェアのアップデートを行ってください。

例:

- (1) スイッチにファームウェアをダウンロードします。

```
DXS-3600-16S>enable
```

```
DXS-3600-16S#copy tftp: //10.90.90.100/DXS3600_Bx_FW2_60_B009.had flash:  
DXS3600_Bx_FW2_60_B009.had
```

```
Address of remote host [10.90.90.100]?
```

```
Source filename [DXS3600_Bx_FW2_60_B009.had]?
```

```
Destination filename [DXS3600_Bx_FW2_60_B009.had]?
```

```
Accessing tftp://10.90.90.100/DXS3600_Bx_FW2_60_B009.had...
```

```
Transmission start..
```

```
Transmission finished, file length 11406288 bytes.
```

```
Please wait, programming flash..... Done.
```

注意 :

- **R1.10.B023またはこれより古いバージョンをご利用の場合 :**
①R2.00.B042、②R2.31.B059、③R2.60.B009 (本ファームウェア) の順でアップグレードを実施してください。
- **R2.00.B042をご利用の場合 :**
①R2.31.B059、②R2.60.B009 (本ファームウェア) の順でアップグレードを実施してください。
- **R2.31B059以降のファームウェアからはR2.60.B009に直接アップグレード可能です。**

- (2) ブートイメージを指定します。

```
DXS-3600-16S#
```

```
DXS-3600-16S#configure terminal
```

```
DXS-3600-16S(config)#boot image DXS3600_Bx_FW2_60_B009.had
```

```
DXS-3600-16S(config)#exit
```

```
DXS-3600-16S#show boot
```

```
Unit 1
```

```
Boot image: /c:/DXS3600_Bx_FW2_60_B009.had
```

```
Boot config: /c:/config.cfg
```

(3) スイッチを再起動します。

DXS-3600-16S#**reboot**

Are you sure you want to proceed with the system reboot?(y/n) **y**

Please wait, the switch is rebooting...

注意：

スイッチのアップグレード中及び再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

(4) バージョンがアップグレードされていることを確認します。

DXS-3600-16S#**show version**

System MAC Address: AA-BB-CC-DD-EE-FF

Unit ID	Module Name	Versions
1	DXS-3600-16S	H/W:B1 Bootloader:1.10.007 Runtime:2.60.B009

DXS-3600-16S#

追加機能：

ファームウェアバージョン	追加機能
R2.60.B009	<ol style="list-style-type: none"> ハードウェアバージョン B2 をサポート致しました。 注意：B2 は R2.60.B009 より古いバージョンにはダウングレードできません。 Radius キー長の上限を 254 文字に拡張致しました。 PIM コントロールパケットにおいて、ユニキャスト/マルチキャスト両方の送信先アドレスに対応致しました。 Flex Link に対応致しました。（CLI のみ） debug show tech support コマンドでスタックユニット毎の表示に対応致しました。 boot image コマンドですべてのスタックユニットの指定に対応致しました。 VLAN インタフェース画面から Port Summary タブを削除致しました。 VLAN 設定ウィザードに対応致しました。

MIB 及び D-View Module の変更点：

ファームウェアバージョン	変更点
R2.60.B009	特になし

CLI の変更点：

注意：ファームウェアを R1.10 から R2.00 にアップグレードする際に、コンフィグレーションファイルがフラッシュに保存されている場合、スイッチは自動的に CLI コマンドを新しいフォーマットに変換します。

ファームウェアバージョン	変更点
R2.60.B009	<ol style="list-style-type: none"> debug show tech support コマンドでスタックユニット毎の表示に対応致しました。 boot image コマンドですべてのスタックユニットの指定に対応致しました。 flex-link コマンドに対応致しました。

修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
R2.60.B009	<ol style="list-style-type: none"> インタフェース VLAN 1 を削除できない問題を修正致しました。 VPLS の設定において、VLAN 範囲の設定が保存されない問題を修正致しました。 Q-in-Q 機能において、VLAN マッピングによる inner タグの変換が適切に実行されない問題を修正致しました。 MAC 認証機能において、認証情報に関する SNMP トラップの OID の一部が誤っている問題を修正致しました。 IPv6 の DHCP プールについて、16 を超えるエントリを設定できない問題を修正致しました。 copy log rcp: コマンドにより転送される log 情報について、不適切な文字コードが含まれる問題を修正致しました。 copy log tftp: コマンドにより転送される log 情報について、不適切な文字コードが含まれる問題を修正致しました。

8. マルチキャストフィルタモードの設定が再起動後に失われる問題を修正致しました。
9. IPv6 DHCP サーバの設定が再起動後に失われる問題を修正致しました。
10. IPv6 DHCP サーバ機能において、対象端末の VLAN 間移動に伴い、不完全な Reply を返す問題を修正致しました。
11. シスログおよび SNMP トラップにおいて、インタフェースのステータスにかかわらずソースインタフェースに指定したインタフェースの IP アドレスが使用される問題を修正致しました。
12. スタック構成において、Mgmt ポート IP アドレスを 0.0.0.0 に設定している場合、マスターの交代時に正しく状態が引き継がれない問題を修正致しました。
13. 再起動後に "no stack preempt" の設定が反映されない問題を修正致しました。
14. MAC 認証機能において、再認証に際し認証されなくなる問題を修正致しました。
15. ポートチャネルにおけるジャンボフレームの設定に対応致しました。
16. CLI プロンプトに関する設定が "show running-config" コマンドにより表示されない問題を修正致しました。
17. RADIUS および TACACS 設定において、指定したソースインタフェースの設定が再起動後に失われる問題を修正致しました。
18. スタック構成において、公開鍵認証による SSH の設定を行っている場合に、マスターの交代時に設定が引き継がれない問題を修正致しました。
19. WebUI による DHCP サーバの設定において、ドメイン名が設定できない問題を修正致しました。
20. SNMP ユーザに関する設定が再起動後に失われる問題を修正致しました。

既知の問題：

ファームウェアバージョン	問題点
R2.60.B009	<ol style="list-style-type: none"> 1. いくつかの CLI コマンドのフォーマットが R1.10 と R2.00 の間で異なっており、ユーザが R1.10 のコマンドを R2.00 で実行できない問題。 【対処法】 ファームウェアアップグレードを行う前にコンフィグレーションファイルを保存してください。 2. CVE-2013-0149 RFC2328 で定義されている OSPF プロトコルの不明瞭な定義により、攻撃者が偽 LSA を送信できる問題。 【対処法】 <ol style="list-style-type: none"> ① OSPF の MD5 認証を有効にしてください。 ② OSPF Passive Interface を有効にし、OSPF に関係していないインタフェース上でのルーティングテーブルアップデートの送受信を停止してください。 ③ MAC (MAC-based Access Control) を有効にし、デバイスがネットワークと通信を行う前にデバイス認証を行ってください。 3. DAD により、自身の NS を受信した場合、該当の IPV6 アドレスが Up しない問題（制限事項） 4. DHCP スヌーピングにおいて、対象外の VLAN で Drop (Block の表示はない) される問題。（制限事項） 5. Rate-limit input/output において、"Bandwidth burst size" に 4 未満の値を設定した場合は、rate-limit がかからない問題。（制限事項） 6. MSTP 使用時、Port に含まれない MSTI を BPDU に含める問題。（制限事項） 7. "switchport protected unidirectional" コマンドにより unknown unicast パケットがフィルタされない問題。 8. DHCP リレーが有効な場合、Discover パケットが対象 VLAN 内にフラッディングされない問題。 9. "sh run" コマンドの実行により "MSTI Region New Root bridge selected" が発生する問題。 10. R2.40.046 をご利用の機器に、R2.49.B028 以降のバージョン設定を読み込むことができない問題。 - R2.49.B028 以降のバージョンから R2.40.046 へのダウングレードにおいて設定を引き継ぐことが

	<p>できません。</p> <ul style="list-style-type: none">- R2.40.046 をご利用の機器に、R2.49.B028 以降のバージョンのコンフィグをリストアすることができません。 <p>(R2.40.046 から R2.49.B028 以降のバージョンへのアップグレード時の設定の引き継ぎは問題ありません。)</p>
--	---

Copyright 2006-2021 D-link Japan K.K.